



探訪

人形作家 (SCULPTURE-DOLL)

戸田 和子 先生を訪ねて

時空を超えた妖精たち

人工大理石を透過した光が、乳白色の浮世絵をくっきりと浮き上がらせる。2007年、ルーブル美術館でのS.N.B.A. (フランス美術家協会) 展に出品した17点のうちの1点「UKIYOEーレリーフ」である。父上が収集された浮世絵の冊子からヒントを得て制作されたとのこと、浮世絵の立体化は新たな挑戦であった。

制作のジャンルは幅広く、石塑粘土を中心に、ブロンズ、陶、金属、樹脂と多くの素材が用いられ、



「夢のかげら」
1994年 / 石塑粘土・FRP / 50.0cm

様々な妖精や悪魔の姿を借りて人間の内面が表現されている。また音楽ではマーラー、絵ではエゴン・シーレが好きといわれる先生の芸術的美意識もこれらの作品に反映されている。

妖精のイメージからは異形に映る「小さな巨人」、背を丸めた巨岩の様な男(森の番人)が掌に

乗せた小さな妖精にやさしく語り掛ける。その姿には新しい命への愛と慈しみが満ち溢れ、見る者に未来への希望を与える。

1980年、創作人形学院で学び、彫刻家熊谷博氏に人体の表現を厳しく教わった。

1994年制作の「夢のかげら」(デミ・ムーアコレクション収蔵)には、朽ち果て化石化した恋人を、いとおむように抱く女性の姿が捉えられ、愛は永遠で崇高なもの、そういう感懐すら抱かせる。

井村君江氏(妖精研究家)との出会いもまた先生の作品に影響を与えた。「井村先生の活字による伝承を基に、私は目に見えない妖精を立体で表現しているんです」ご自身の分身として命が吹き込まれた妖精を前に言われた。「人形は作るものではなく、生まれるもの、生みだすものなんです」

福島県金山町の、只見川にかかる上井草橋の袂に設置されるブロンズ像「薄明の妖精」を見せて頂いた。只見の自然界の四大現象である木、水、石、風を現した



「UKIYOE-レリーフ」
2007年 / 人工大理石 / 60.0×40.0cm



「小さな巨人」
1998年 / ブロンズ / 100.0cm

群像には、只見線の事故を風化させず、金山の自然と人々を守る祈りを込めたという。

作家の内面表出を主眼とする戸田ワールドの多様なモチーフ達が、時を超えて見る者の心に沢山のことを語りかけてくれるだろう。

戸田 和子 (とだ かずこ)

Cazuko

- 1980 日本創作人形学院にて人形制作を学ぶ
- 1992 個展「Doll Fantasia」(水戸京成美術館)
- 1999 随想隨筆文芸画 郷土作家シリーズ 戸田和子展
写真集「イノセント 妖精の森」新風社より出版
- 2001 「ima展」文部科学大臣奨励賞
個展 CFM Gallery (New York Soho)
- 2004 個展「眩惑する妖精たち」(松屋銀座 美術サロン)
S.N.B.A.展にて Prix Saakura-SNBA2004受賞
「Prevision (予期)」
- 2005 「われらの時代」展 (水戸芸術館)
- 2006 「薄明の妖精たち」(ギャラリーサザ)
- 2007 Salle de Cazuko S.N.B.A. (Salon 2007)
(Carrousel du Louvre Paris)
- 住所 ひたらなか市西大島1-26-23
- URL <http://www.cazuko.com>